

# To the Next

## 青経塾 新たなるステージ



5年前、300名だった青経塾が今期 1000名となった。

「青経塾は日本中探してもない独自の運営形式。

1000名もいながら事務局を持たず、全て手弁当で運営している。」

その青経塾が新たなるステージを迎えるにあたり、  
今後の展望を遠山塾主にお聞きした。

「時代のニーズがあるから、塾是があるから発展するのです」と遠山塾主。塾発展の要因を端的に述べられる。しかし、塾生である我々を取り巻く状況は余談を許さない。激変する世界情勢、長引く不況、低迷する株価。このような時代だからこそ単なる知識だけを求めている良いのだろうか。

「じっと座ってはいけい。全ての現場を知らなくてはならない。そして、今何がニーズなのかを考えなくてはならない」と遠山塾主。今、時代のニーズを見据えた知行合一の精神が我々に求められている。

現在、時代が求めるニーズのひとつとして環境問題がクローズアップされている。環境問題の対策は一つの業界にとどまらず社会全体を視野に置いたニーズになっている。中小企業で環境問題に取り組むのは非常に難しい。しかし、そのような問題に対し「ソシオ(社会)カンパニー」という発想を基本に持つてくるのが大切」と遠山塾主。一企業が終始するのではなく、環境問題も視野に含めた社会の中の一企業という観点が重要である。遠山塾主の会社では、今まで捨てていたタイル・陶器の不良品を粉碎し、塗料に混ぜて外壁塗料剤として製造されている。常に眼前の問題が自分とどう関わりがあるかを感じなくてはならない。

「いつも時代のニーズに合致したことをすれば必ず繁栄する。それは塾でも同じなのです」「本当の意味で必要なもの(理念)を念頭に置いて、それから具体的に問題を考えるべきです」と遠山塾主。経営者として、塾生として何が時代のニーズなのかを、常に問題意識を持って考えなくてはいけい。

今期、嘗々とした30年の積み重ねの上に、青経塾は新たなるステージを迎える。

「今、何が必要かを絶えず具体的に考え、勉強する精神で運営すれば、塾は不滅です」「企業経営も理念を持ち、時代のニーズに合致していなければいけい」と遠山塾主。それには塾生一人一人の絶え間ない努力と、勉強の上に立脚した時代を感じとる目が必要ではないだろうか。時代に流されない錨をもちながら、常に時代を感じる感性を磨き前進していく必要性を感じた。

「今必要なものは知識ではなく、知恵と勇気だ」

(遠山語録 試練の章)。

千の知恵と勇気こそが次代を乗り越える原動力になると確信した。

(第30青経塾 鏡味誠司)

新たなる  
ステージ